

vol. 114通信 (平成22年2月9日発行)



発行元：株式会社サポート・ワン・サービス
愛知県津島市愛宕町四丁目113 〒496-0036
代表TEL：(0567) 26-3921
FAX：(0567) 26-3922
ホームページ <http://www.s-o-s.co.jp>

＜鬼は外～！／S・O・S＞



節分行事。ナイス・デイ、愛宕の家、ナイス・ホームの合同です。恵方巻きを食べて味覚を満喫。ゲームでは鬼退治してお腹の底から大笑い。テラスに出での豆まきは、「寒いから…」と尻込みする人も居たけれど、いつの間にか周りの人に誘われて、豆を片手に「鬼は外～！福は内～！！」フロアに戻ると「年の数だけ食べる」と目を細めて真剣に豆を数えていました。やる気になれなかった方が一番張り切っていたような…。集団の力が生きるってこういうことなんですよね。楽しんでもらえて何よりでした♪



＜地域密着型小規模多機能……？／ナイス・ホーム＞

地域に密着したサービス提供という制度。事業所の認可をするのは津島市。そのため、登録利用が出来るのは津島市在住の方のみ。2月の第1週目、3名の方と新規契約を行い、現在、7名の方とお付き合いをしています。小規模で多機能？…介護保険のサービスを利用するには、本来、居宅介護支援事業所(ケアマネ)との契約を行います。その後、どのサービスを利用するか検討し、それぞれの事業所(例えば、訪問介護・通所介護・ショートステイ・福祉用具など)と利用契約を結びます。この事例で想定すると、…5件の事業所との契約締結を必要とします。それに対して、小規模で多機能とは、ひとつの事業所と契約することで、多機能(居宅・訪問介護・通所介護・ショートステイの4種)なサービス利用が可能ということになります。ケアマネは同事業所内で臨機応変に対応できるように予定調整を行います。

＜登録契約に不安を抱く方へ＞臨機応変な対応を可能にするためにもケアマネを変更することが条件となっていますが、多分、ここが引っかかるころ……。なんだと思います。信用してもらえませんか。

＜お見舞い／愛宕の家＞

入居者さんが胸の痛みを訴えて入院されたのは1月半ば。仲良しさんは「まだ退院しないの？大丈夫？」「お見舞いに行きたいけど…」と心配する毎日。スタッフが面会に行ったり、ご家族からの情報を伝えるものの、顔を見ないと安心出来ない様子が伝わってきました。そこで、比較的暖かい日に皆でお見舞いに出かけました。面会を終え病院を出てきた時の表情で、顔を見て安心したことが分かりました。入居者さん同士はご近所さんであり、大切な仲間。退院はまだ難しいため、「また会いに行かなくちゃね…」と思いを馳せています。

＜緊急時の対応／ナイス・ケア＞

訪問すると利用者さんの様子がいつもと違う。おかしい……。意識はあるが返事は出来ない。不安だった。事務所に連絡した。ケアマネさんが駆けつけてくれた。「騒ぎになると…」と懸念する家族と一緒に説得し、救急車を呼ぶ。救急隊員に既往歴や現状を伝える。救急車が病院に向けて出発した。ホッとすると同時に湧き上がるのは「救急車を呼んでもらって正解だっただろうか」「慌てずに、するべきことが出来ていただろうか」という自責の念。ヘルパーとして訪問するが故の責任の重さを感じた瞬間だった。カンファレンスで話し合う。緊急時、落ち着いた判断と連携、そして、的確な対応が出来るヘルパーでありたいと皆が思った。



＜看護師コーナー／バイタルサインを毎回、毎日測るのはなぜ？①＞

そもそも、バイタルサインとは何か？『人間が生きている証としての徴候のこと、体温・脈拍・呼吸の3大要素に血圧と意識を加えた5大要素』のこと。なぜ、毎日毎日、どこにも異常がなさそうなのにバイタルを測るのか？新人看護師として働いているころ、忙しい業務に追われる中、検温等に時間を奪われる度に、疑問に思っていた。バイタルサインって何なの？意味は？それが、1年経った頃だろうか。右胸の呼吸音が聞こえない。昨日までは聞こえたはず？？何度も確かめた。でも、やっぱり聞こえない。恐る恐る先生に報告してみる。レントゲンを撮ってみたら、右肺がしぼんでいた。その時、バイタルサインを毎日毎日、同じ時間帯に測ることの大切さが身に染みた。バイタルサインを測ることはその人を知る、ひとつの、大きな、大切な方法だということ。肝心なことは、微妙な変化に気付くには、毎日の関わりが何よりも大切で基本であるということ。看護師11年目の私、その基本は何よりも大切にしたい。S・O・Sの中でどのような視点で役割を果たしていくべきかを見出すためにもこの看護師コーナーを設けていくことにします。乞うご期待！(T)

＜親切？それとも…／ナイス・デイ＞

「またトイレ？」10分の間隔を空けずにトイレに行く利用者さんにスタッフは声を掛けます。「便器の周りが汚れるから座ってね。」「トレットペーパーを目茶苦茶にしないでよ。」「ほらほら、濡れたから着替えて」行動を起こす度に声を掛け、手を出す。親切のような感じを受ける。しかし、この関わりをし始めてから、あつという間に顔付きは厳しくなり、5分と空けずトイレに行くようになっていた。「おしっこが出ているか確認が必要でも、トイレを汚したとしても、この関わり方はオカシイ。嫌な感じがする。」というスタッフの声がきつかけとなり、家族に病院受診を勧め医師の指示に従い内服を開始。合わせて、親切に見える監視をやめた。結果、状況は改善している。しかし、それとは反対に「デイサービスは皆で利用する場所。清潔でなきゃ他の利用者さんに失礼に当たると思って必死だった。」という意見も出た。良いケア・良いサービスとは何が基準なのか。常に意見を出し合い、考える姿勢を忘れないようにしたい。

＜編集後記＞

同じことを21日間繰り返すと脳は「習慣」として認識する…。片付け上手になりたいと思って読んだ本に書いてありました。それによると片付けが苦手な人は固定観念が強く、変化を受け入れにくい傾向があるとか。違和感を覚えながらも変化を受け入れ習慣化していけば、物事は案外うまく進むのかも…。片付けの苦手な私も、考え方を柔軟にし、変化を前向きに捉えて楽しく生きていきたい。そんなことを意識しながら、まずは片付ける習慣を身に付けていきたいと思っています。(M)